

## 意見の申立て及びその対応

## 中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> I 教育に関する目標 3. 優れた点, 改善を要する点, 特色ある点</p> <p><b>【原文】</b> 「(改善を要する点) 中期計画「岩手大学大学院連合農学研究科の充実を図る」について, 達成状況報告書には, 充実を図る取組についての自己分析がなされておらず, 中期計画の進捗状況が認められないことから, 改善することが望まれる。」</p> <p><b>【申立内容】</b> 削除願いたい</p> <p><b>【理由】</b> 岩手大学大学院連合農学研究科は岩手大学を設置大学とし, 弘前大学は参加大学の一つとなっている。したがって, 本学自らが主体となって岩手大学大学院連合農学研究科の教育・研究の充実を図る取組について当然記載できなかつたため, 参加大学として可能な当該計画の推進として, 教員個々に対する資格審査を経て可能となる参加教員数の増加, 参加率の向上を挙げ, その進捗状況として, 同研究科の教育実施体制を構成している本学農学生命科学部教員における同研究科指導教員の割合を示した。 また, 同研究科の管理運営組織である研究科教授会及び研究科代議員会に出席し, 教育に関する事項の審議に加わっていることや, 本学教員が指導教員として学生に教育研究指導を行っていることについては, 基本的な事項であることから積極的に</p>	<p><b>【対応】</b> 原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b> 中期計画に掲げられている以上, その取組についての自己分析が必要であり, また, 教員参加率についても低下しているため。</p>

は記載しなかった。

これらのことから、評価結果において改善を要するとの指摘については、当該中期計画の性格等を勘案すると適切とはいえないため、削除願いたい。

中期目標の達成状況に関する評価結果
-------------------

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            III 社会との連携、国際交流等に関する目標            3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点            (優れた点)</p> <p><b>【原文】</b>            「○ 中期計画「民間企業との共同研究、受託研究、受託研究員の受入れ、民間等との人事交流の促進を図る」について、<u>地域共同センターのコーディネーター、アドバイザーによる積極的な企業訪問等、・・・</u>」</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>            ○ 中期計画「民間企業との共同研究、受託研究、受託研究員の受入れ、民間等との人事交流の促進を図る」について、<u>地域共同センターの産学官連携コーディネーターによる積極的な企業訪問等、・・・</u>」</p> <p><b>【理由】</b>            産学官連携コーディネーターが企業を訪問しており、アドバイザーは企業訪問を行っていないため。</p>	<p><b>【対応】</b>            意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：02・人文社会科学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> Ⅱ 質の向上度 1. 質の向上度</p> <p><b>【原文】</b> 「○「FD事業の実施」については、平成19年度後期から行われている点、<u>また、学生による授業評価結果を教員に配付するだけという点では、改善、向上しているとは言えないと判断される。</u>」</p> <p><b>【申立内容】</b> 下線部分を削除願いたい。</p> <p><b>【理由】</b> 「FD事業の実施」について、取組の内容や根拠資料・データにおいて「学生による授業評価結果を教員に配付する」旨は記載していないため。</p>	<p><b>【対応】</b> 意見のとおりとする。</p>

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：05・医学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> Ⅱ 質の向上度 1. 質の向上度</p> <p><b>【原文】</b> <u>「改善，向上しているとは言えない</u></p> <p><u>当該組織から示された事例は6件であり，</u> <u>その中で「改善，向上しているとはいえない」と判断された事例があった。</u> <u>該当する事例の判断理由は以下のとおりである。</u></p> <p><u>○「授業評価（臨床実習）の取組」については，内容的に当然の取組と思われる点で，改善，向上しているとは言えないと判断される。」</u></p> <p><b>【申立内容】</b> <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b> <u>「相応に改善，向上している</u></p> <p><u>当該組織から示された事例は6件であり，</u> <u>そのすべてが，「相応に改善，向上している」と判断された。」</u></p> <p>※評価結果（案）では事例ごとの判定結果が示されていないため，すべてが「相応に改善，向上している」と仮定して修正文案を作成した。</p> <p><b>【理由】</b> 全学統一により実施している学生による授業評価アンケートでは，臨床実習に関する</p>	<p><b>【対応】</b> 原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b> 現況調査表に記載されている内容を再確認した結果、申立ての内容に改善・向上が見られないため。</p>

<p>る項目がないことから、医学部保健学科において各専攻独自で臨床実習アンケートを実施し、平成19年度後期にはこれらを統一したアンケートを実施した。これによって、臨地・臨床実習を通して、講義との関連性を深め、専門的知識・技術の習得、医療人としての心構え、患者の接遇、他職種との連携等の学生自身による知識・知能の取得並びに改善状況を明らかにしたことから、「授業評価（臨床実習）の取組」については、改善、向上していると判断されるため。</p>	
---	--

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：07・保健学研究科

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            1 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）            2. 教育内容  <b>【判断理由】</b></p> <p><b>【原文】</b>            「・・・と「教育・研究者育成コースワーク」からなる「共通科目」と健康増進、老年保健、<u>障害保健の3分野</u>における・・・」</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>            「・・・と「教育・研究者育成コースワーク」からなる「共通科目」と健康増進<u>科学</u>、<u>老年保健学</u>、<u>障害保健学</u>などの<u>6分野</u>における・・・」</p> <p><b>【理由】</b>            後期課程の授業科目に関する資料として、研究科規程を掲載し、健康支援科学領域の3分野（健康増進科学、老年保健学、障害保健学）を抜粋により示したが、ほかに医療生命科学領域でも、放射線生命科学、生体機能科学、病態解析科学の3分野において特講や演習などを開講しているため。</p>	<p><b>【対応】</b>            意見のとおりとする。</p>



## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称：03・医学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b> Ⅱ 質の向上度 1. 質の向上度</p> <p><b>【原文】</b> <u>「改善，向上しているとは言えない</u> <u>当該組織から示された事例は4件であり，</u> <u>その中で「改善，向上しているとはいえない</u> <u>」と判断された事例があった。</u> <u>該当する事例の判断理由は以下のとおりで</u> <u>ある。</u></p> <p><u>○「科学成果の質の向上」については，記</u> <u>載されている内容を担保する客観的なデー</u> <u>タが示されておらず，これらの点で，改善</u> <u>，向上しているとは言えないと判断される</u> <u>。」</u></p> <p><b>【申立内容】</b> 修正文案の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b> <u>「相応に改善，向上している</u> <u>当該組織から示された事例は4件であり，</u> <u>そのすべてが「相応に改善，向上している</u> <u>」と判断された。」</u></p> <p>※評価結果（案）では事例ごとの判定結果が示されていないため，すべてが「相応に改善，向上している」と仮定して修正文案を作成した。</p> <p><b>【理由】</b> 3頁の「①研究の実施状況」において，</p>	<p><b>【対応】</b> 原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b> 現況調査表を再確認したところ、論文・著書等の研究業績については、横ばい又は漸増であること、学会発表については、平成19年度のみ増加に止まること、また、科学成果の内容を担保するまでの根拠までは見受けられないため。</p>

<p>「論文・著書等の研究業績については、平成16年度：588件、平成17年度：648件、平成18年度：591件、平成19年度：644件である。」と記載し、研究論文数について平成16年度末時点と平成19年度末時点を比較した場合に、増加していることは明らかに確認できる。従って、客観的なデータは示されていることから、修正文案の通り変更願いたい。</p>	
---	--